

# 2026年 LME6金属予測レポート（2026年版）

発行日：2026年2月15日

作成：非鉄金属ナビ

## はじめに：2026年を読むための「地図」を手元に

本レポートを手にとっていただき、ありがとうございます。2026年の非鉄金属市場は、AI・電力網・脱炭素といった長期需要が伸び続ける一方で、鉱山・製錬・地政学・政策による供給制約が同時に噴き出しやすい、非常に読みづらい局面に入っています。

相場が荒れる年ほど、最後にものを言うのは「勘」ではなく、①どの数字を基準にするか、そして②その数字の“背景”を説明できるかです。本レポートは、現場の意思決定（仕入れ・販売・在庫・ヘッジ・予算）にそのまま使えるよう、根拠の出所が明確な予測だけを集め、比較できる形に整えました。

### 執筆の背景：AI時代だからこそ、最後は“検証”が勝つ

生成AIは情報収集の速度を大きく上げます。一方で、市況予測のように数字の鮮度・定義・出典が重要な領域では、

- 古いレポートの混入
- 別指標（前提価格/スポット/予測）の取り違い
- 根拠の薄い推測の混在 が起こりやすく、「それっぽいけど危ない結論」が生まれがちです。

そこで本レポートでは、AIの要約に寄りかからず、一次情報（公表元）に立ち返って、「この数字は何を意味するのか」「いつ時点のものか」「どの前提に立っているのか」を、人の目で一つずつ確認しました。この“地味な工程”こそが、本レポートの品質そのものです。本レポートが、皆さまの2026年における意思決定の一助となれば幸いです。

## 第1章：銅（Copper）－歴史的な高値への挑戦と「構造的逼迫」の正体

### 主要機関による「2026年 銅相場」予測コンセンサス

調査機関	2026年 代表予測価格 (LME)	公表時期	予測の核心（超要約）
J.P. Morgan	約\$12,075/t (年平均)	2025/11/28	供給混乱+低在庫でタイト。Q2平均\$12,500を想定。
Goldman Sachs	\$11,400/t (年平均)	2025/12/18	関税シナリオと在庫循環で「高値→調整」を織り込む。
S&P Global Ratings	\$10,500/t (前提価格)	2025/10/27	企業分析のベースケース。耐性設計の基準値。
Fastmarkets	\$10,000-\$11,000	2025/11/28	精鉱逼迫・製錬制約など不確実性を反映。
PPC (国内最大手)	\$10,000超 (年平均)	2025/12/1	2026年需給：▲28wt (供給不足) の見通し。

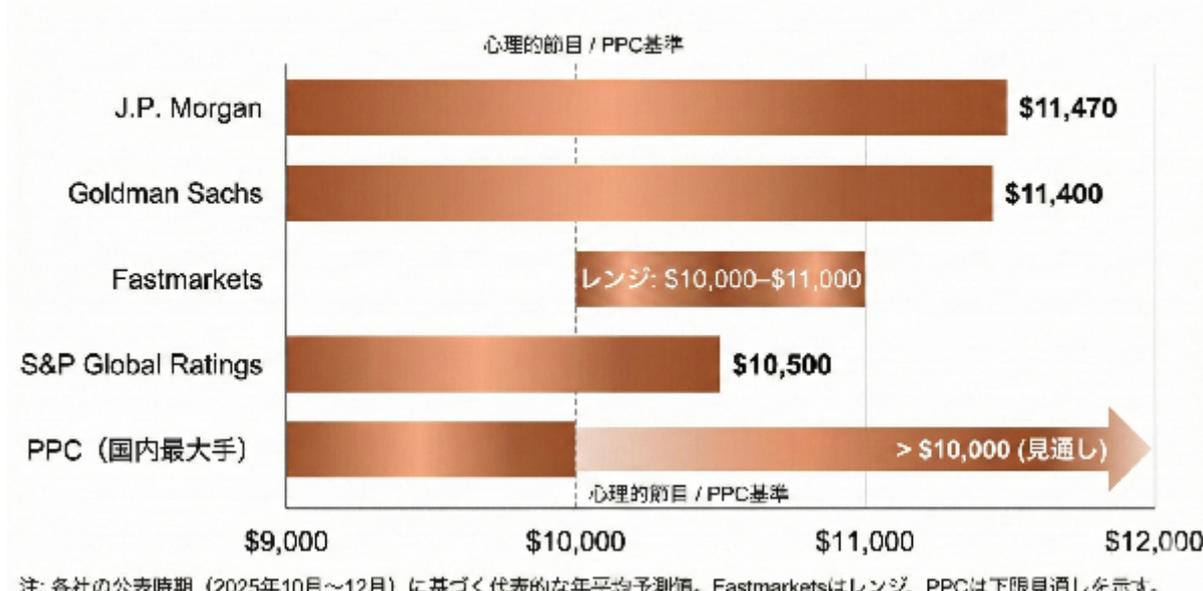
## 調査機関の解説：なぜこの数字を重視するのか

- J.P. Morgan (J.P.モルガン)
  - 企業概要: 米国に本社を置く世界最大級の総合金融グループ。
  - 信頼の根拠: 銅は実需だけでなく「投機マネー」で価格が大きく動きます。彼らは世界の資金フローを支配しているため、相場を動かす「金利・ドル・投機筋」の動きを最も正確に予測できます。
- S&P Global Ratings (S&Pグローバル)
  - 企業概要: 世界三大格付け機関の一角を占める、金融・事業会社の信用評価機関。
  - 信頼の根拠: 彼らの予測値は、鉱山会社の信用格付けを行う際の「ベース（基準）」として使われるため、絶対に大外しできない「最も保守的で堅実なライン」を示しています。
- Fastmarkets (ファストマーケット)
  - 企業概要: 金属・鉱物の価格指標（ベンチマーク）を提供する英国の価格報告機関（PRA）。
  - 信頼の根拠: 銅精鉱の製錬委託費（TC/RC）など、製錬所の現場コストを定点観測しており、供給側の「目詰まり」や「悲鳴」を最も早く価格に織り込むことができます。
- PPC (パンパシフィック・カッパー)
  - 企業概要: JX金属などが共同出資する、日本国内最大の銅製錬メーカー。
  - 信頼の根拠: 日本の「銅建値」を実質的に決定している当事者です。彼らが「28万トンの不足」と見るならば、国内の現物は間違いなく逼迫するため、日本のスクラップ業者にとって最も重い意味を持つ数字です。

## 2026年相場を決定づける「3つの決定的要因」

1. AIデータセンターという「銅の爆食」：配線や冷却システムに膨大な銅が必要となり、最強の下支えに。
2. 「製錬所の悲鳴」と供給の壁: PPCが予測する28万トンの不足は、精鉱不足による「世界的な減産リスク」を反映。
3. 米国関税に伴う乱高下: 前半は駆け込み需要で押し上がりますが、後半の反動には注意が必要です。

## 主要機関による2026年 銅相場予測 (LME年平均, USD/t)



## 出典リンク (銅)

- J.P. Morgan (2025/11/28) Copper Market Outlook : Q2 2026 平均 \$12,500/mt 等 [J.P. Morgan](#)
- Goldman Sachs (2025/12/18) 2026平均 \$11,400/t (Reuters / GS資料) [Reuters](#)

- S&P Global Ratings (2025/10/27) 銅価格前提：US\$10,500/mt（～2027のベースケース） [Reuters](#)
- Fastmarkets (2025/11/28) 2026ベースケース：\$10,000–\$11,000/t [Fastmarkets](#)
- PPC (2025/12/01) 世界銅地金需給：28万t供給不足、年平均\$10,000超（Japan Metal Daily）

## 第2章：アルミ（Aluminum）－供給の「天井」と対日プレミアムの逆風

主要機関による「2026年 アルミ相場」予測コンセンサス

調査機関	2026年 代表予測価格 (LME)	公表時期	予測の核心 (超要約)
Fastmarkets	1Hに \$3,200/t	2025/11/28	市場不足の想定で強含み。上昇余地あり。
Goldman Sachs	1H平均 \$3,150 / Q4 \$2,500	2025/12/10	前半は極めてタイト。後半は需要鈍化。
丸紅	3ヶ月先物：高値で \$3,000超	2025/12/16	中国の生産上限による供給不足化を重視。
ING Think	\$2,900/t (年平均)	2025/12/08	2026年は不足想定。価格は強力に下支え。

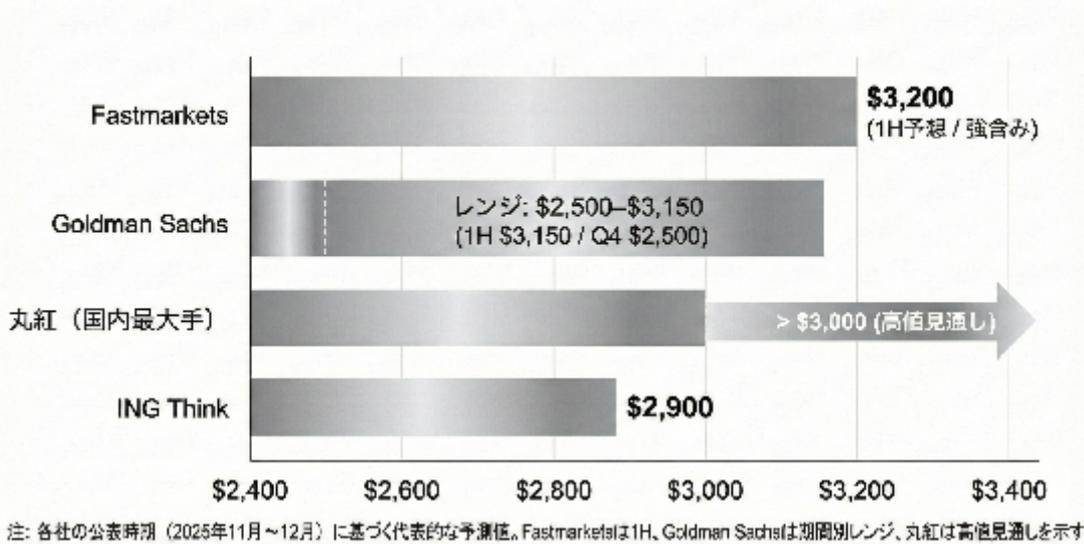
調査機関の解説：独自視点を持つ有力ソース

- 丸紅 (Marubeni)
  - 企業概要: 日本を代表する総合商社（大手5社の一角）。
  - 信頼の根拠: アルミ地金の取扱量で国内トップシェアを誇ります。LME価格だけでなく、日本の実務家にとっての仕入れコストである「対日プレミアム (MJP)」の交渉を主導する立場にあるため、現場価格の予測精度は随一です。
- ING Think (INGグループ)
  - 企業概要: オランダに本拠を置く、欧州最大級の総合金融機関のリサーチ部門。
  - 信頼の根拠: 欧州の環境規制 (CBAM) やエネルギー問題に精通しています。アルミは「電力の缶詰」と呼ばれるほどエネルギーコストの影響を受けるため、欧州視点でのコスト分析に長けています。

2026年相場を決定づける「2つの決定的要因」

1. 中国「45Mtの壁」：丸紅が指摘する通り、中国の生産能力が上限に達し、供給が物理的に増やせない「天井」が完成。
2. 対日プレミアムの高騰: 丸紅の分析では一時\$200超えも。LME以上に日本の実務家にとって厳しい仕入れコストになります。

## 主要機関による2026年 アルミ相場予測 (LME年平均, USD/t)



## 出典 (アルミ)

- ING Think (2025/12/08) : 2026年平均 \$2,900/t (不足想定で価格を下支え)
  - 参照: [参照: think.ing.com](http://think.ing.com)
- 丸紅 (2025/12/16) : 中国の生産上限を背景に、3ヶ月先物が高値で \$3,000超
  - 参照: [Japan Metal Daily](http://Japan Metal Daily)
- Goldman Sachs (2025/12/10) : 1H平均 \$3,150 / Q4 \$2,500 (前半タイト→後半需要鈍化)
  - 参照 (数値確認) : [Reuters](http://Reuters)
- Fastmarkets (2025/11/28) : 1H \$3,200/t (市場不足想定で強含み)
  - 参照: Fastmarkets

## 第3章：ニッケル (Nickel) — 供給過剰とインドネシア「制度リスク」の攻防

### 主要機関による「2026年 ニッケル相場」予測コンセンサス

調査機関	2026年 代表予測価格 (LME)	公表時期	予測の核心
Macquarie	\$17,750/t (年平均)	2026/02/03	インドネシア要因を重視。強気側へ大幅修正。
Goldman Sachs	\$17,200/t (年平均)	2026/02/03	鉱石供給の締めを受け上方修正。
S&P Global MI	\$16,513/t (\$7.49/lb)	2026/01/30	採算悪化に伴う供給調整の可能性を示唆。
PricePedia	\$16,000/t (年平均)	2026/02/02	複数見解のまとめ。市場の中央値。
Reuters poll	\$15,988/t (年平均)	2026/01/29	生産管理強化で上振れも、余剰拡大を併記。
BMI (Fitch)	\$15,500/t (年平均)	2026/01/07	供給過剰 (約25万t) を背景にレンジ推移。

## 調査機関の解説：市場の「総意」を読み解くソース

- Macquarie Group (マッコリー・グループ)
  - 企業概要: 資源大国オーストラリアを本拠とする、グローバル金融グループ。
  - 信頼の根拠: 鉱山会社との距離が近く、特にニッケル主産地であるインドネシアやオーストラリアの現場情報に精通しています。「理屈では供給過剰だが、現場の混乱で価格が上がる」といった、数字に表れないリスクを察知する能力が高いです。
- PricePedia (プライスペディア)
  - 企業概要: イタリアを拠点とする、産業用原材料の価格分析・予測を行う専門機関。
  - 信頼の根拠: 金融市場の予測ではなく、実際の「調達・購入価格」のデータをベースにしています。極端な偏りを排除した「中央値」を提示するため、実務上の予算策定における基準として最適です。
- BMI (Fitch Solutions)
  - 企業概要: 世界三大格付け会社フィッチ・グループ傘下の、調査・リスク分析部門。
  - 信頼の根拠: 「25万トンの余剰」といった需給バランスを、国家リスク (カントリーリスク) とセットで分析します。相場の上値を抑える「重石」の正体を最もシビアに見積もる機関です。

## 2026年相場を決定づける「2つの決定的要因」

1. インドネシアの供給引き締め: 2月に入りMacquarieらが上方修正した主因。採掘許可の遅延が相場を押し上げる。
2. 構造的余剰 vs 供給調整: 市場全体では余剰だが、S&P Globalの分析では現在の価格は製錬所の採算ライン。自発的な減産が底を支える。

## 主要機関による2026年 ニッケル相場予測 (LME年平均, USD/t)



注: 各社の公表時期 (2025年1月~2月) に基づく代表的な年平均予測値。インドネシア要因等による見解の相違が大きい点に留意。

## 出典 (ニッケル)

- Macquarie (2026/02/03) : 2026年平均 \$17,750/t (インドネシア要因を重視し大幅上方修正)
  - 参照 (Reuters配信の転載) : 参照 : [marketscreener.com](https://marketscreener.com)
- Goldman Sachs (2026/02/03) : 2026年平均 \$17,200/t (インドネシア鉱石供給の締めを受け上方修正)
  - 参照 (Reuters配信の転載) : [TradingView](https://tradingview.com)
- S&P Global Market Intelligence (2026/01/30) : \$16,513/t (\$7.49/lb) (採算悪化→供給調整の可能性を示唆)

- 参照：[S&P Global](#)
- PricePedia (2026/02/02)：2026年平均 \$16,000/t (複数見解を統合したシナリオ)
  - 参照：[参照：pricepedia.it](#)
- Reuters poll (2026/01/29)：2026年平均 \$15,988/t (上振れ余地を残しつつ余剰拡大も併記)
  - 参照：[Reuters](#)
- BMI (Fitch Solutions) (2026/01/07)：2026年平均 \$15,500/t (供給過剰を背景にレンジ推移)
  - 参照 (報道・記事での言及)：[参照：northernminer.com](#)
  - 補足 (近接日付の補強ソース)：[参照：businessmirror.com.ph](#)

## 第4章：錫（スズ） — 「半導体の生命線」を襲う構造的供給リスク

主要機関による「2026年 錫相場」予測コンセンサス

調査機関	2026年 予測価格 (LME)	公表時期	予測の核心 (超要約)
PricePedia	約 \$41,000/t	2025/12/01	供給制約が続き高止まり。年平均は \$41k を僅かに下回る。
BMI (Fitch)	\$35,000/t	2025/12/02	供給問題の継続により、従来の \$32k から上方修正。

2026年相場を動かす「2つの決定的要因」

1. 「AI・データセンター」のハンダ需要: World Bankが指摘するように、AIサーバー増設による代替不可能な需要が最強の盾です。
2. 供給リスク継続: インドネシアやミャンマーの混乱が、世界供給の約3割に影響を落としています。

### 主要機関による2026年 錫相場予測 (LME年平均, USD/t)



### 出典 (錫) | 参照日

- PricePedia (2025/12/01)：約 \$41,000/t (供給制約が続き高止まり。年平均は41kを僅かに下回る趣旨)
  - 参照：[参照：pricepedia.it](#)

- BMI (Fitch Solutions) (2025/12/02) : \$35,000/t (従来の\$32kから上方修正。供給問題の継続を背景)
  - 参照 : [参照 : mining.com](https://www.mining.com)
- World Bank (2025/10/17) : \$34,000/t (2026f) (Commodity Markets Outlook の価格予測表)
  - 参照 : [World Bank](https://www.worldbank.org)

## 第5章：亜鉛 (Zinc) — 供給過剰への転換期と「在庫の賞味期限」

主要機関による「2026年 亜鉛相場」予測コンセンサス

調査機関	2026年 代表予測価格 (LME)	公表時期	予測の核心 (超要約)
Trading Economics	\$3,300/t (12ヶ月後)	2026/02/03	短期的な在庫枯渇が価格を支えるが、中期的には調整へ。
三井金属 (国内最大手)	\$3,000/t (年平均)	2026/02/02	供給過剰 (約20万t) の見通し。想定レンジは \$2,900~\$3,300。
Morgan Stanley	\$2,900/t	2025/12/18	新規鉱山の稼働により供給が回復。2025年比で約10%下落予想。

調査機関の解説：亜鉛市場の「実需」を読み解くソース

- 三井金属 (Mitsui Kinzoku)
  - 企業概要: 亜鉛の国内トップシェアを誇る、日本の非鉄金属メーカー。
  - 信頼の根拠: 日本の「亜鉛建値」の改定を主導するプライスリーダーです。
- Trading Economics (トレーディング・エコノミクス)
  - 企業概要: 世界196カ国の経済指標と金融市場データをリアルタイムで提供するWebプラットフォーム。
  - 信頼の根拠: 最新の在庫状況や為替動向をアルゴリズムで解析しており、「今日、明日どう動くか」という短期的な相場の体感温度を知るのに適しています。
- Morgan Stanley (モルガン・スタンレー)
  - 企業概要: 米国に本拠を置く、世界的な金融機関 (投資銀行)。
  - 信頼の根拠: 金融サイクルの視点から価格の「適正水準」を割り出すことに長けています。特に2026年の供給回復シナリオにおいて、投資資金が引き揚げるタイミングの予測に定評があります。

2026年相場を動かす「2つの決定的要因」

1. 「精製亜鉛の供給ラッシュ」: Morgan Stanleyが指摘するように、鉱山供給の回復で市場に大量の精製亜鉛が流れ込みます。
2. メッキ需要の重し: 三井金属も注視する、中国の建設・不動産セクターの停滞が需給バランスを「供給過剰」へ導きます。

## 主要機関による2026年 亜鉛相場予測 (LME, USD/t)



注: 各社の公表時期 (2025年12月~2026年2月) に基づく代表的な予測値。予測の前提 (12ヶ月後、年平均など) は異なる。

### 予測の核心:

Trading Economics: 短期的な在庫枯渇が価格を支えるが、中期的には調整へ。

三井金属: 供給過剰 (約20万t) の見通し。想定レンジは \$2,900~\$3,300。

Morgan Stanley: 新規鉱山の稼働により供給が回復。2025年比で約10%下落予想。

## 出典 (亜鉛) |

- Trading Economics (2026/02/03) : \$3,300/t (12ヶ月後) (短期は在庫タイトで下支え、中期は調整リスク) — [Trading Economics](#)
- 三井金属 (2026/02/02) : \$3,000/t (年平均) /レンジ \$2,900~\$3,300 /需給 約20万t供給過剰 (低在庫で余剰感は限定的) — 参照: Japan Metal Daily [Japan Metal Daily](#)
- Morgan Stanley (2025/12/18) : \$2,900/t (2026年見通し) (在庫回復・鉱山供給増で小幅下押し) — 参照: Reuters配信 (TradingView掲載) /同内容の転載。 [TradingView](#)

## 第6章：鉛 (Lead) — 安定した需給バランスと「底堅い」UPS需要

### 主要機関による「2026年 鉛相場」予測コンセンサス

調査機関	2026年 代表予測価格 (LME)	公表時期	予測の核心 (超要約)
Fastmarkets	約 \$2,000/t 水準	2025/12/12	需給は大きく崩れず、2027年まで \$2,000 近辺で安定推移。
World Bank	\$1,975/t (年平均)	2025/10/17	「大崩れしにくい」前提。2026年は小幅上昇の見込み。
ILZSG	10.2万tの供給余剰	2025/10/13	「供給 > 需要」だが、数量は“じわっと余る”程度の規模。

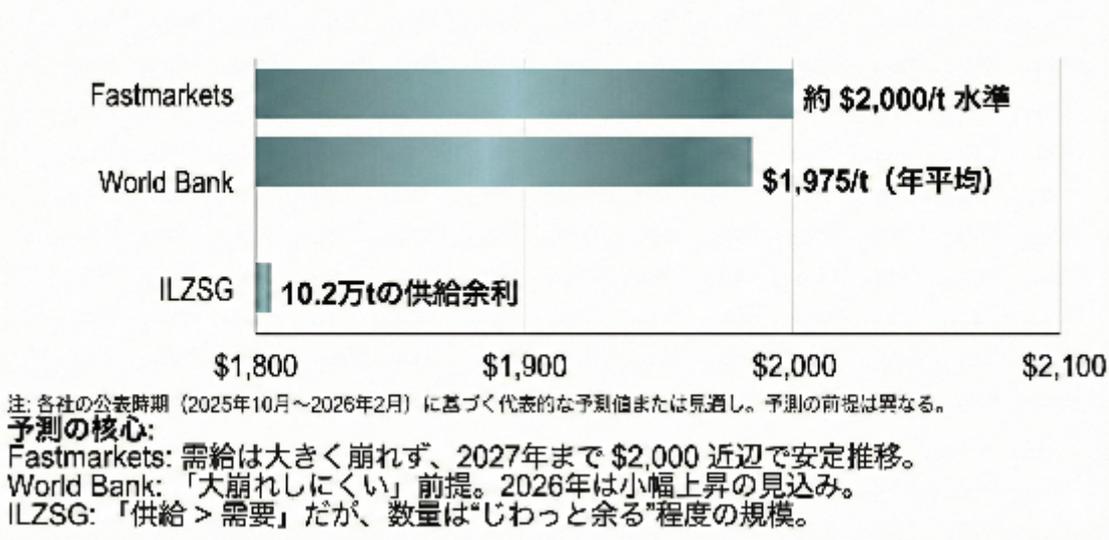
### 調査機関の解説：鉛市場の「実需」を読み解くソース

- ILZSG (国際鉛亜鉛研究会)
  - 企業概要: 鉛と亜鉛の生産・消費国政府や産業界で構成される国際的な政府間機関。
  - 信頼の根拠: 民間の予測と異なり、各国政府から提出される公式データを集計しています。「10.2万トンの余剰」という数字は、世界で最も精度の高い需給バランスの決定版です。

## 2026年相場を動かす「2つの決定的要因」

1. AIデータセンターの「UPS需要」：World Bankが予測するように、AIインフラのバックアップ電源として鉛蓄電池の需要は底堅いです。
2. 安定した「リサイクル・ループ」：ILZSGのデータ通り、リサイクル供給が安定しているため、供給構造が崩れにくいです。

### 主要機関による2026年 鉛相場予測 (LME, USD/t)



## 出典 (鉛)

Fastmarkets (2025/12/12) : LME鉛は \$2,000/t 近辺で2027年まで推移がベースケース (需給は大きく崩れにくい) — 参照: [Fastmarkets](#)

World Bank (2025/10/17) : \$1,975/t (2026f 年平均) (Commodity Markets Outlook の予測表) — 参照: [World Bank](#)

ILZSG (2025/10/13) : 2026年 精製鉛は +102,000t の供給余剰見通し (「供給 > 需要」だが大幅ではない) — 参照: [ILZSG](#)

## 第7章：2026年 最終総括：非鉄金属ナビの「一点予想」と市場コンセンサス

全てのデータを統合し、2026年の市場を勝ち抜くための「私の一点予想」を提示します。

### 銅 (Copper)

- 方向性：上 (ただし“前半高・後半調整”の形が濃い)
- 根拠：2026年のコンセンサスは、銅がベースメタルの“勝ち組”という見立て。ただし1月の異常高値は「持続不能」扱いで、年平均はピークよりかなり低い前提。
- 私の一点予想 (LME平均) : \$11,800/t
  - (参考: Reuters poll平均 \$11,975/t)
- Reasoning : 当メディアでは熱狂プレミアム”を少しだけ削って、それでも構造逼迫の強さを残す位置に置きます。

### アルミ (Aluminium)

- 方向性：上 (ただし急騰というより“高値定着”寄り)

- 根拠：2026年平均のコンセンサスは上方で、背景に「中国の生産上限（供給の天井）」の意識が強い。
- 私の一点予想（LME平均）：\$3,000/t
  - （参考：Reuters poll平均 \$2,946/t）
- Reasoning：当メディアは供給の天井+需要の底堅さ（軽量化/電力網）で、コンセンサスよりほんの少し上に置きます。

#### ニッケル（Nickel）

- 方向性：レンジ（高ボラ・ニュースで上下に振られる）
- 根拠：コンセンサスは「今の高値からは落ち着く」トーン。供給（特にインドネシア）要因が大きく、“制度/政策のショック”が値動きを作りやすい。
- 私の一点予想（LME平均）：\$15,700/t
  - （参考：Reuters poll平均 \$15,988/t）
- Reasoning：当メディアでは「過剰の重さ」を優先して少し下に置きます（ただし“急騰スパイク”は別腹）。

#### 亜鉛（Zinc）

- 方向性：横～やや下（前半は強いが、余剰が効いてくる）
- 根拠：鉱山供給増が精製供給に繋がる（＝余剰が表に出る）という見立てが強い。ILZSGもFastmarketsも後半の下押しを示唆。
- 私の一点予想（LME平均）：\$3,050/t
- Reasoning：「上半期の底堅さ」と「余剰の現実」の折衷点。上に振れやすいのは前半、下の怖さは後半、という置き方です。

#### 錫（Tin）

- 方向性：上（ただし“超高値の持続”ではなく“高値帯の維持”）
- 根拠：供給が地政学に弱く、価格が跳ねやすい。Reutersの見立ても「勝ち組」。予測レンジは広い（\$35k～\$41k）。
- 私の一点予想（LME平均）：\$36,500/t
- Reasoning：上の\$41kは「強気の上限寄り」、\$35kは「保守寄り」。当メディアでは供給リスクを残しつつ、平均としては“過熱分は剥落する場所に置きます”。

#### 鉛（Lead）

- 方向性：横（安定。じわじわ）
- 根拠：ILZSGは10.2万トンの供給超過を見込む。爆発力はないが、需要がゼロになるわけでもない。
- 私の一点予想（LME平均）：\$2,050/t
- Reasoning：供給超過で上値は重いが、底堅い需要もある。「レンジの中心」に置きます。

## 非鉄金属ナビによる2026年 市場総括と一点予想（仕入れ・販売・在庫・交渉の“基準線”）



※この「一点予想」は、当てにいくための占いではなく、実務における仕入れ・販売・在庫・交渉の“基準線”として設計されています。

## 総括：2026年 非鉄・スクラップ実務の勝ち筋（3つ）

### 1. 「基準の一本」を持つ人が、交渉を制します

J.P. Morganや三井金属、PPCのように、相手が無視できない“基準値”を持っているだけで、交渉は一段ラクになります。ポイントは「価格」そのものより、なぜその水準になるのかを短く説明できること。本レポートはその“説明の材料”もセットで用意しました。

### 2. 前半は攻め、後半は守る——時間軸を分けて設計する

多くの金属で、年後半に調整シナリオが意識されています。上半期は機会が出やすい反面、逆回転も速い。利確・在庫回転・ヘッジを前倒しで設計し、後半はキャッシュと在庫の安全度を上げる——この時間軸の切り分けが、2026年の損益を分けます。

### 3. “判断のスピード”がリスクを減らします

ボラティリティが高い年は、遅い意思決定そのものがコストになります。本レポートの予測値を社内の共通言語にし、仕入れ・販売・在庫の判断を「同じ前提」で揃えてください。迷いが減り、決定が速くなります。

## 免責事項

本レポートは、公開情報および各種調査機関・企業の公表資料等をもとに作成した、非鉄金属市況に関する情報提供を目的としたものです。特定の金融商品・先物取引・投資行動の勧誘、または投資助言を目的とするものではありません。

記載の予測値・見通しは作成時点の情報に基づくものであり、将来の価格・需給・市場動向を保証するものではありません。市場環境、政策・規制、地政学、供給障害、為替、流動性、投機資金動向などにより、結果が大きく変動する可能性があります。

本レポートの情報を利用したことにより生じたいかなる損害についても、作成者および当社は一切の責任を負いません。最終的な意思決定は、読者ご自身の判断と責任にて行ってください。

本レポートが、皆さまの2026年の意思決定に少しでも役立てば幸いです。市況は日々変化します。必要であれば、重要トピック（在庫・TC/RC・政策・中国指標など）の変化点を、要点だけ追加で整理してお届けします。